

# 北海道馬追丘陵 キウス7遺跡で見つかった断層

西田 茂<sup>1)</sup>・羽坂俊一<sup>2)</sup>・小林幸雄<sup>3)</sup>

## 1. はじめに

石狩低地帯東縁に位置する馬追丘陵は、N-S 方向の西馬追背斜、馬追向斜、馬追背斜からなる褶曲構造をもち、馬追衝上断層、由仁衝上断層、峻淵断層の分布が報告されている(吾妻, 1961)。また活断層研究会(1991)によって泉郷断層、馬追断層、峻淵断層の活断層の分布も報告されており、断層の集中している地域である。今回馬追丘陵西翼部、千歳市キウス7遺跡発掘調査地において、新たな小断層が見つかったので報告する。

遺跡の発掘は、1993年度より千歳市から夕張市間の高速道路工事に伴い行われていて、これまでに縄文時代中期・後期・晩期及び続縄文時代後北期の住居跡や、縄文時代早期から擦文文化期におよぶ時期の土器石器の遺物が出土している(鬼柳ほか, 1995)。調査地では上位から樽前a降下軽石・第I黒色土対応の腐植土・樽前c降下軽石・第II黒色土対応の腐植土・ローム・恵庭a降下軽石の堆積物が観察される。遺構・遺物は樽前c降下軽石層を挟む上下二枚の腐植土層から見つかっている。

1995年度の発掘調査は5月から行い、縄文時代後期中葉の竪穴式住居跡等を検出している。今回確認された断層は、旧石器時代の遺構・遺物の存在確認のため恵庭a降下軽石層を掘り進んだところ、その下のローム層で明瞭な段差が認められたものである。

## 2. 観 察

最初に断層を中心に発掘調査範囲北端から12m四方の恵庭a降下軽石層を取り除き、ローム層の面をきれいに復元した。ローム層面はその堆積時に断層が形成されたわけではなく特別な意味はもたないが、口絵3のような連続した明瞭かつリアルな断層地形面を観察することができた。ローム層面で見られる断層の一般走向はN42°E、変位量は西落ち最大約80cmの正断層である。断層は発掘調査範囲内(第2図)で明瞭に観察することができ、長さは約30mである。延長部の南側はさらに追跡が可能と思われるが、北側は小河川によって削られ崖になっているため判らなくなる。その後断層に直交するようにトレンチを約2m掘削し、壁面の観察を行った。壁面ではローム層、支笏軽石流二次堆積物からなる火山灰・軽石・砂の層が見られる。断層はこの層を明瞭に切っているがその下限は見出すことができない。断層は3箇所見られるが、それぞれが交差し合う「切った切られた」という関係は無く、また現地地形や壁面の観察からも累積性はみられないため、一度の活動によるものと考えられる。

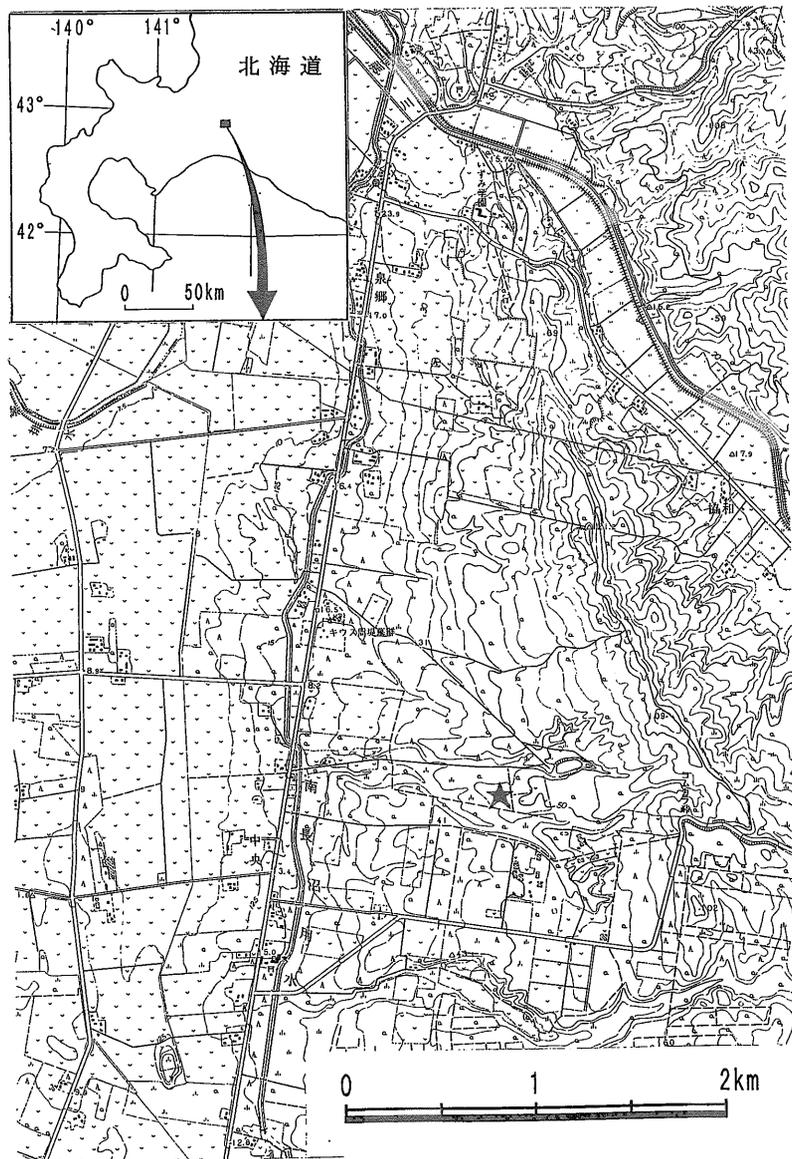
ローム層の上部は既に述べたように取り除いてしまっているので第2図のA地点において観察を行った。恵庭a降下軽石層上部のローム層は明瞭に切られており段差が見られるが、上位の第II黒色土の上部及び樽前c降下軽石層には段差が見られない。このことからこの断層が形成された時期は、恵庭a降下軽石層が噴出した約13000年前(曾屋・佐

1) 北海道埋蔵文化財センター：  
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

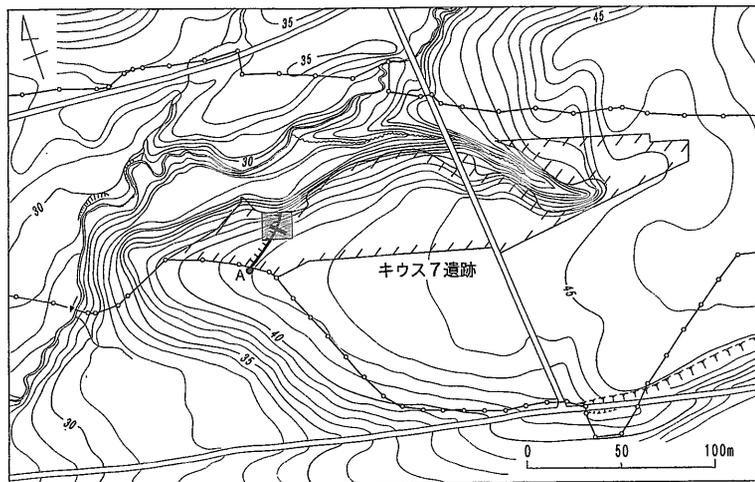
2) 地質調査所 北海道支所

3) 北海道開拓記念館

キーワード：断層、馬追丘陵、北海道、遺跡

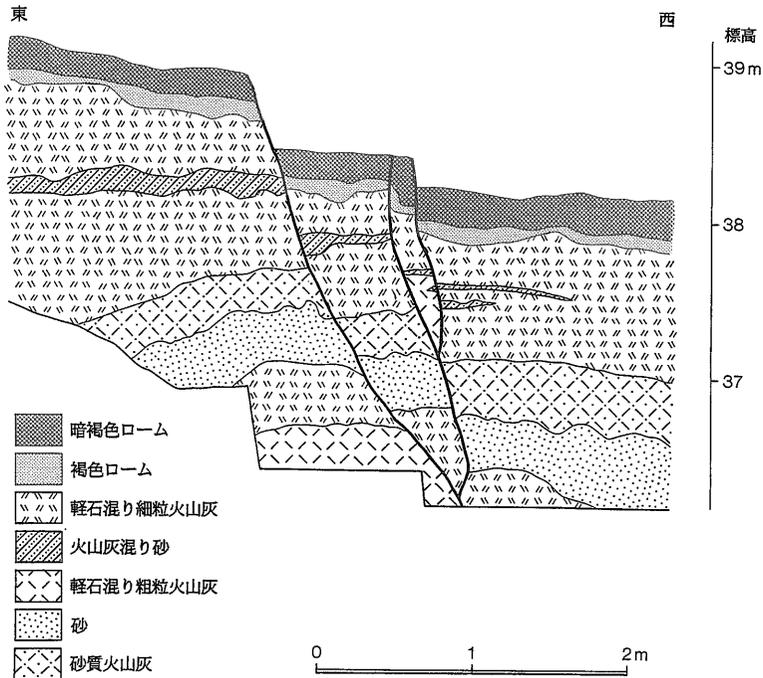


第1図  
調査地域位置図。星印が調査位置。  
(国土地理院発行2万5千分の1地形図「長都」を使用)

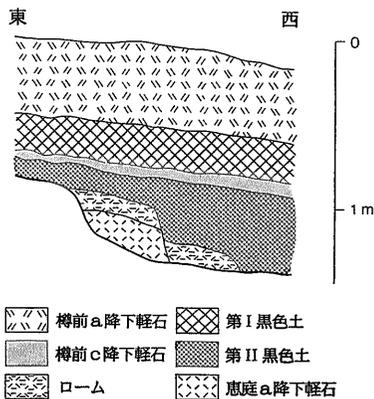


断層 トレンチ位置 恵庭a.降下軽石削刷地域 遺跡調査範囲 高速道路境界

第2図 遺跡調査範囲と断層位置図。高速道路のパーキングエリア予定地なので境界が南(下方)へ伸びている。



第3図 トレンチ部分の断面図. 南側壁面.



第4図 第3図上位層から表層までの断面図. 位置は第2図A地点.

藤, 1980)以後, 縄文時代後期の遺物が見出される第II黒色土が堆積する約3000年前までの間となる.

### 3. おわりに

今回見つかった断層はこれまでに報告されているものと比べると, 長さが短く方向も異なる. したがって主に活動したのではなく, 他の断層の活動により従属的に形成されたものと考えられる. しかし現時点では主に活動した断層を特定するまでには至

っていない.

謝辞: 北海道埋蔵文化財センター 三浦正人, 鎌田望, 倉橋直孝, 吉田裕史洋, 花岡正光の各氏および遺跡発掘作業員の方々にはトレンチ掘削等全般にわたって協力していただいた. 北海道開拓記念館 赤松守雄, 山田悟郎, 右代啓視, 地質調査所 下川浩一及び井村隆介の各氏には多くの助言をいただいた. ここに記して感謝の意を表します.

### 文 献

吾妻 稷(1961): 由仁平野と馬追丘陵の地下構造(その1). 石油技術協会誌, 26, 169-179.  
 活断層研究会(1991): 「新編」日本の活断層. 東京大学出版会, 479p.  
 鬼柳 彰他(1995): キウス7遺跡. 北海道埋蔵文化財センター調査年報 7, 50-52.  
 曾屋龍典・佐藤博之(1980): 千歳地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 92p.

NISHIDA Shigeru, HASAKA Toshikazu and KOBAYASHI Yukio (1996): Discovered fault in KIUSU 7 ruins, UMAOI HILL, HOKKAIDO.

〈受付: 1995年11月16日〉